

<b>マーケティング論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：T. アサモア	
<b>講義の目標及び概要</b> 我々を取り巻く環境の進展は、企業の行動や消費者の生活に絶えず影響している。マーケティングで取り扱われている問題は、企業だけでなく、消費者の行動に密接に関連している。さらに、マーケティングは物的商品の関係する企業のみならず、新たにサービス企業を対象としても研究されるようになってきている。 本授業においては、マーケティングの基礎理論も、マーケティング環境を説明するために当然考慮する。企業のマーケティングに力点が置かれるが、消費者行動にも言及する。 引用する例の大部分は、日本企業の関するものであるが、様々な国における企業のケースにも触れてみたい。 最初の講義へマーケティング論の運営方法及び評価方法について説明する。	
<b>評価方法</b> 総まとめテストを実施する。成績は、試験の結果及び、レポートとショートテストに基づいて総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 村田昭治『マーケティング』プレジデント社	

<b>マクロ経済学</b>	春 週2回 4単位
担当者：石部 公男	
<b>講義の目標及び概要</b> マクロ経済理論（マクロ分析）の中心は国民所得論を中心とした内容となるが、できるだけ現在の経済諸問題に結びつけた内容とする。今回特にリーマンショック後のアメリカ経済と、ギリシャ国債問題に代表されるヨーロッパのソブリン・リスクや中国の問題など、世界経済と日本経済の関連についてマクロ経済学の立場から講義をする。マクロ経済学としての基本的経済理論を解説しながら、これらの問題や日本の財政、経済成長などについて考える力を養うように基本的事項について詳しく丁寧に授業を進めることを心がける。 徐履修者の状況によっては多少内容が変わることもある。リカレント教育対象として一般社会人などの受け入れも可。	
<b>評価方法</b> テスト60%、提出物（レポートや授業中の課題）などの平常点40%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 中谷 巖『マクロ経済入門（第2版）』日経文庫	

<b>まちづくり学</b>	秋 週2回 4単位
担当者：平 修久	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 自分たちのまちは自分たちで良くしようという、生活環境の改善や地域振興という動きが全国で広がっている。このようなまちづくりは、人と人とのつながりを深めるばかりでなく、関わっている人たちの人間的成長ももたらす。また、まちは総合的なものであり、まちづくりを学ぶことは視野を広げ、人生をより豊かなものにするにつながる。 本科目では、背景、定義、タイプなどのまちづくりの概要、まちづくりの進め方と主な手法、分野別課題と事例、まちづくりの意義や目指すものなどを学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ まちづくりは、コミュニティ政策学科のメインテーマであることから、本科目は、同学科の共通専門科目として最も重要な科目の一つである。社会学、地域社会論、行政学などと合わせて学ぶと理解が深まる。 3. 学びの意義と目標 身近なまちの問題や課題、まちづくりの意義、内容、手法を理解し、説明できるようになることが学びの目標である。	
<b>評価方法</b> 課題（30%）、期末レポート（50%）、出席点（20%）を総合して評価する（予定）。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>まちづくり論研究</b>	春 週1回 2単位
担当者：平 修久	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 前半は、まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な公共性、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働と合意形成のあり方、物理的なまちづくり制度の都市計画制度、地区計画・建築協定について学ぶ。後半は、分野別に、まちの問題を整理し、問題解決に向けたまちづくり事例について、受講生の発表をもとに議論する。分野としては、中心市街の衰退、コミュニティの衰退、福祉のまちづくりなどを予定している。 2. カリキュラム上の位置づけ 総合科目の一つであり、聖学院大学における学びをより発展させたい場合や、大学院への進学を志す者はぜひ取得すべき科目である。そのため、4年生を対象とし、GPA3.0以上が履修条件である。 3. 学びの意義と目標 「都市計画」という行政主導で行うことが多い都市整備に対して、「まちづくり」ということばと動きが住民の間に誕生し広がっていった。地方分権、住民と行政との協働といった潮流がまちづくりを後押ししている。本科目では、具体的な事例などを学ぶことにより、まちづくりの意義、効果、あり方、課題などについての理解を深める。また、大学院（政治政策学専攻）の授業であり、社会人を主体とする大学院生に混じって、発表や討議などのあり方も学ぶ。	
<b>評価方法</b> 授業への参加状況（20%）、課題発表（30%）、レポート（50%）により、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>マネジメント</b>	春 週2回 4単位
担当者：後藤 兼一	
<b>講義の目標及び概要</b> 講義の目標：会社の経営管理に関心のある人及び将来親の会社を継ぐかも知れないと思っている人を対象とする。 本講義ではより良い経営管理をするためには何をどのように改革改善すれば良いかということについてカレー屋やそば屋、及び大手企業の例をもとに実践的に学ぶ。本年度のねらいは改革改善の基本である経営『コンサルティングの切り口』を理解することである。将来実際に企業に入って役に立つと思われる。 カリキュラム上の位置づけ：経営管理を学ぶ上で基礎となる科目の1つである。本科目が開講されていない年度には経営管理を履修すること。 講義の概要：テキストを使い、経営管理の現場をどのように分析・把握したらよいか、経営管理の問題点・課題などをどのように整理したらよいか、そして経営管理の改革案・改善案をどのように立てればよいか、さらにどのように実施していけばよいかなどについて、事例をもとにわかりやすく勉強する。講義の特徴は、経営管理で使われている、用語を比較する形で行なわれるところにある。	
<b>評価方法</b> 講義ではプリントに書かれている事例のほかに多くの事例を話す。従って出席も重視する。評価は出席状況30%と試験結果70%を総合して決める。	
<b>教科書</b> 後藤兼一『コンサルティングの切り口』日本能率協会コンサルティング	

<b>マルチメディア論</b>	春 週2回 4単位
担当者：河島 茂生	
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) 「マルチメディア」という言葉自体は使い古されてしまっている感じが強い。しかし、その言葉が指し示していたデジタル技術は、現代社会により広く深く根づいてきている。本授業では、まずデジタル技術へと至るメディアの系譜を紐解く。次に、画像・動画・音声のデータの処理を含めて、コンピュータ技術の基本について扱い、その後ウェブ技術を中心にインターネット技術の基本を説明する。さらに、デジタル技術にかかわる近年の動向を取り上げ、互いに議論しながら情報社会の批判的理解を養うことを目指す。また、図書館を使った情報検索や外部施設の見学も行い、デジタル技術の特徴を深く学んでいく。 (カリキュラム上の位置づけ) コミュニティ政策学科専門科目群 (学びの意義と目標) この授業を通じて、デジタル技術について理解し応用できる能力を習得でき、加えて情報社会の問題を発見する術を身につけることができると考えられる。	
<b>評価方法</b> 出席状況と授業態度および試験結果を総合して評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>ミクロ経済学</b>	春 週2回 4単位
担当者：中野 宏	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 ミクロ経済学の基礎および応用理論を学習する。消費者がモノを買う、企業がモノを作る、市場でモノの価格が決まる、政府が課税や規制を行う、など日常的に行われている様々な経済活動の行動法則や決定原理を明らかにすることで、いかなる経済の状態が社会的に最も望ましいのか、またそれを実現するためにはどうすればよいかを探っていく。少なからず数学を用いるが、必要最小限のものについては折に触れて説明する。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「経済学」を履修した上で受講すること。 3. 学びの意義と目標 将来学生諸君がどのような職業につこうと、社会に出れば経済を知ることは必須となろう。テレビや新聞などマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具を本講義で身に付けてもらえたらと願う。	
<b>評価方法</b> 出席点30%、平常点および課題提出(1回)と期末テスト70%で評価する。平常点とは授業態度や質問など授業に積極的に参加しようとする意欲に対する評価である。課題提出や期末テストで思わしくなくとも平常点で挽回可能なので頑張ってください。	
<b>教科書</b> 賀川昭夫・戸田学・浜野忠司『FirstStep ミクロ経済学』有斐閣	

<b>見るアート</b>	秋 週1回 2単位
担当者：喜田 敬	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) (内容) 「見るアート」は、視覚によって認識できるような芸術作品のことであり、絵画・彫刻・版画・写真などが含まれる。こどもは生まれたときから様々な視覚的刺激に囲まれて育つ。こどもが育つ過程で与えられる視覚刺激は、実に多様である。本講義では、様々な時代の人々が残した多様な芸術作品や、芸術作品として耐えうる絵本などを紹介し、多角的に解説していく。さらに、実際の作品に触れる機会も提供する予定である。これらのことを通して、受講生が、視覚芸術を味わい楽しめるようになることを目指している。 (2) (カリキュラム上の位置づけ) こども心理学科の専門科目であり、1年次から履修することのできる選択科目である。 (3) (学びの意義と目標) 人は視覚を通して様々な情報を得ており、心理学の重要な研究分野の一つである。またアートが人の感情や情緒に及ぼす影響も大きい。この人の心と密接な関係にある視覚的な芸術作品に触れ、理解することは、心理学を学ぶ上で重要な意義を持つ。	
<b>評価方法</b> 出席25%、レポート25%、試験50%の割合で評価する	
<b>教科書</b> 高階秀爾『西洋美術史』美術出版社	

ま  
行

民法A (総則・物権)	春	週2回	4単位
担当者：松谷 秀祐			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容:民法は、私人間の法的関係を規律している法律である。本科目は民法の中で第1編総則(第1条から第174条の2)と第2編物権(第175条から第398条の22)を講義の対象とする。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的では決していない。まずは基本的な枠組みを把握することを目標として、現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について具体的な事例問題を用いて説明する。 2. カリキュラム上の位置づけ:本科目は、必修の専門基礎科目である「法学」を学修した学生が、私人間の法的関係を定めている法律の典型例である民法について、「より広く、より深く」学ぶための法学系専門科目である。 3. 学びの意義と目標:無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法・消費者法と関わりを持たなくてもよい者はいない。自分(たち)が民法・消費者法によって規律されている世界に生きていることを実感し、将来、身の回りに法的な問題が生じたときに、何となくでもよいので、自身で解決の糸口を見出せる能力を身に付けることを目標とする。			
<b>評価方法</b> 中間試験(第16回講義時を予定)30%、および学期末試験70%			
<b>教科書</b> 円谷峻『民法』(財)放送大学教育振興会			

民法B (債権)	秋	週2回	4単位
担当者：松谷 秀祐			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容:民法は、私人間の法的関係を規律している法律である。本科目は、民法の中で第3編債権(第399条から第724条)を講義の対象とする。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的では決していない。まずは、基本的な枠組みを把握することを目標として現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について具体的な事例問題を用いて説明する。 2. カリキュラム上の位置づけ:本科目は、必修の専門基礎科目である「法学」を学修した学生が、私人間の法的関係を定めている法律の典型例である民法について、「より広く、より深く」学ぶための法学系専門科目である。 3. 学びの意義と目標:無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法・消費者法と関わりを持たなくてもよい者はいない。自分(たち)が民法・消費者法によって規律されている世界に生きていることを実感し、将来、身の回りに法的な問題が生じたときに、何となくでもよいので、自身で解決の糸口を見出せる能力を身に付けることを目標とする。			
<b>評価方法</b> 中間試験(第16回講義時を予定)30%、および学期末試験70%			
<b>教科書</b> 円谷峻『民法』(財)放送大学教育振興会			

民法C (親族・相続)	春	週2回	4単位
担当者：加藤 恵司			
<b>講義の目標及び概要</b> 本講座は、民法の家族法に関する講義である。人は両親によって生を受け、家族と生活し、家族に看取られつつ亡くなっていく。家族は最も基本的、自然的な社会集団である。 わが国の民法典には、旧民法といわれる法典があり、戸主を中心とする家族制度、家督相続制度があった。もう一つは、敗戦後の新憲法に基づいて、夫婦中心の家族制度、遺産相続制度がある。本講座は後者であるが、旧民法をも意識して学習する。 近年の家族形態には、核家族、高齢家族、晩婚・非婚化、少子化の傾向が家族観に変化をもたらせている。「法律は家庭に入らず」という法諺があるが、法律と家族関係は無関係でよいのだろうか。たしかに「夫婦は愛し合うべきである」とか、「子どもを大切に育てよ」とか、「親を敬え」というような道徳観だけでは支えきれずに崩壊していく。裁判によって破綻を決定的にする家族が多く見られる。このような意識を抱きながら講義する。 民法では、夫婦関係、親子関係を取り扱った「親族編」、相続、遺言などを取り扱った「相続編」をあわせた部分を家族法と称している。法律と現実を見つめ、判例など具体例を挙げながら現代の家族事情を分析してみたい。			
<b>評価方法</b> 試験は行わない。講義で論じられたUp-to-Dataな問題についてのレポートによって採点する。			
<b>教科書</b> 『コンパクト六法』岩波書店 『ポケット六法』有斐閣 『デイリー六法』三省堂			

<b>病と健康の科学</b>	秋 週1回 2単位
担当者：中村 馨男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1) 〈内容〉          人類の健康に脅威となつた疾病の原因とその予防について学びたい。おもな分野は、感染症、生活習慣病、環境要因に起因する疾病などである。健康とはなにか、人類はこの数百年に限っても、どのような病の脅威と戦ってきたかについても解説できればと思う。</p> <p>(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉          2年次以降に、微生物・免疫学、解剖・生理学、薬理学および栄養学など医科学関連科目が配当されている。それらの科目への準備として、基礎的な知識や考え方を身につけるとともに、その入門の役目と考えている。</p> <p>(3) 〈学びの意義と目標〉          世界から天然痘が撲滅されたとき、人類は感染症を征圧できたと考えた。しかし、AIDS、SARS、新型インフルエンザなど新たな感染症が出現した。結核の新たな脅威も報告されている。一方、貧しい国では飢餓と低栄養が、豊かな国では過度の肥満、糖尿病など生活習慣病が健康を脅かしている。平均寿命の伸長は、高齢社会を生み、医療と福祉の需要を増加させている。病の原因と背景を探り、その予防と対策について学んでゆきたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
1) 出席約20% 2) 授業態度（座席順を含む）約20% 3) 毎回の小テスト約30% 4) 期末テスト約30%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>幼児指導法の研究</b>	春 週1回 2単位
担当者：佐藤 千瀬	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容          幼児理解の理論や方法（幼稚園教育要領・保育所保育指針における「指導」の概念、幼児理解の理論、方法論等）について概説し、幼児理解に関する基本的な理論と方法論の理解を目指す。本講義では、幼児の発達の特質、幼児理解の理論と方法論を踏まえたうえで、ビデオ視聴等を通して、観察法等の方法論の実際を学ぶ。また、具体的な幼児の事例を分析することを通して、幼児理解を深め、幼児理解の留意点等について学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。また、保育士資格取得のための選択必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標          ・様々な実践例を視聴することを通して、幼児理解、保育・教育に関する自身の枠組みを広げる。          ・適切な情報を収集し、クラスメイトと協力して創意工夫をした発表を行う。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点 30% 授業時の課題・小テスト 70%	
<b>教科書</b>	
文部科学省『幼稚園教育要領解説—平成20年10月』文部科学省 厚生労働省『保育所保育指針解説書（平成20年）』厚生労働省 文部科学省『幼稚園教育要領—平成20年告示』文部科学省 厚生労働省『保育所保育指針—平成20年告示』厚生労働省	

<b>幼稚園教育実習</b>	春 週1回 4単位
担当者：相川 徳孝/佐治 由美子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 目標          幼稚園で3週間の実習を行うことを目的とした科目であり、すでに履修している基礎実習を土台とし、各自の実習目標や実習で取り組みたい課題を実習生として指導を受けながら実践していく。授業内容としては幼稚園における子どもの実態、生活の流れ、保育者の子どもに対する具体的な援助方法、教材研究を中心に実習に向けての事前準備を中心に進めていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          幼稚園教諭免許取得のための必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標          3週間の実習を通して保育者としての使命感と子どもに対する理解を深め、各自の資質の向上をはかることや、子どもの発達に適した対応ができる実践的な力を養う。          また、実習後の事後指導において自己課題を見出すことも学びの目標である。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価の対象となるのは事前指導、実習、事後指導すべてに参加し、実習日誌や課題レポートを提出している学生であり、幼稚園からの実習評価（80%）とレポート（20%）で評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>ヨーロッパ史(近・現代)</b>	秋 週2回 4単位
担当者：和田 光司	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容) この授業はもうひとつの「ヨーロッパ史(中・近世)」とセットで、ヨーロッパ史の大まかな流れを追いながら、各時代の基本的な事件、社会的特徴を解説する。ヨーロッパ中世と近世(5世紀から18世紀まで)は、もうひとつの「ヨーロッパ史(中・近世)」で私が講義する予定である。それに続く近代と現代(19、20世紀)を扱うのが、この「ヨーロッパ史(近・現代)」である。学生はどの授業からでも選択が可能であり、一つだけを選択することも可能である。          基礎知識の習得のため、3回の小テストを行う。理解の助けのため視聴覚教材も用いる。          教科書は授業毎に参照するので、必ず購入すること。          (カリキュラム上の位置) 入門の「西洋史」に続く、基礎的授業である。「歴史学概論」はこれをより発展させた上級科目である。          (学びの意義と目標) ヨーロッパの文化を学ぶ際の基礎となる、ヨーロッパ史の大まかな流れ、各時代の基本的な事件や社会的特徴を把握する。</p>	
<b>評価方法</b>	
レポート(60%)、出席(40%)	
<b>教科書</b>	
『山川世界史総合図録』山川出版社	

や  
行

<b>ヨーロッパ文化概論</b>	春 週2回 4単位
担当者：原 一子	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉 ヨーロッパ文化は、ヘレニズム、ヘブライズム、ケルト・ゲルマン、ローマ帝国などの諸要素から成り立っている。そこでこれら要素についてまず理解を深め、更にヨーロッパ文化に大きな刺激を与えたイスラム教についても学ぶ。講義後半では、修道院、巡礼、都市生活、また『アーサー王物語』を初めとする伝説、民話、祭り、教会建築、ヨーロッパ人のメンタリティなどについても取り上げ、生きたヨーロッパ文化を学ぶことができるように講義を進める。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 欧米文化学科「専門科目群」の「基礎学」に位置し、欧米文化学科の2年次以上の学生を対象とする選択必修科目である。「アメリカ文化概論」「ヨーロッパ文化概論」のいずれかの修得が卒業要件である。 (3) 〈学びの意義と目標〉 ヨーロッパ文化の諸要素について詳しく学ぶことによって、全体としてヨーロッパとは何かを理解することが本講義の目標である。	
<b>評価方法</b> 学期末試験を筆記試験にするかレポートにするかは受講者数によって開講時に決める。試験またはレポートの成績(50%)、出席率(30%)、授業中の課題の習得度(20%)などから総合的に評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>ヨーロッパ文学史</b>	春 週2回 4単位
担当者：富田 光明	
<b>講義の目標及び概要</b> 1、内容 ヨーロッパ文学史は古代ギリシャ・ローマ時代の思想などが反映され、それが文学の形態をとったヨーロッパ文学の歴史である。本来は多数の国の文学を扱わなくてはならないのであるが、この授業では、近現代の日本に文化・文学に多大な影響を与えたと思われ、日本人には身近な英米文学(もちろんフランス文学・ロシア文学などからも多大な影響がある)を対象とした文学史を講義する。 2、カリキュラム上の位置づけ 欧米文化全体を知るためにも、最初に欧米文化・文学の礎であるギリシャ・ローマ神話とキリスト教について概略を理解した上で、本講義を受けることが有益である。そしてその後英米文学史の授業に入っていくことにする。 3、学びの意義と目標 文学史は文学の流れを扱うものであるが、それと同時に彼らの思想・時代の社会情勢を考慮しなければならない。その意味でもこの授業と密接な関係にある「英米文学概論」を学んだ学生は、より深い理解が得られると思う。	
<b>評価方法</b> 授業参加意欲(発表など)が40%、レポートが40%、出席が20%によって算出する。	
<b>教科書</b> 福田 昇八『イギリス・アメリカ文学史』南雲堂	

<b>予備演習 A</b>	春 週1回 1単位
担当者：秋吉 祐子/飯島 康夫/後藤 兼一/柴田 武男/土方 透/村上 公久	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>内容</b> 1年時のキャンパス生活の中で授業を効果的に受講するためのガイダンスの授業を行う。各担当者が各授業内容を企画・実行する。共通メニューとして(1)2年時からの専門演習選択のための担当者による紹介授業、(2)アッセンブリーアワーを活用する授業を行う。  <b>カリキュラム上の位置づけ</b> 基礎教育の一環。  <b>学びの意義と目標</b> 大学での学習生活への円滑な導入をし、学習意識や意欲を高めること。	
<b>評価方法</b> 出席を80%、授業態度を20%とする。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>予備演習 A</b>	春 週1回 1単位
担当者：渡辺 英人/川添 美央子/大塚 健司/瀧名 浩一/大森 達也/谷口 隆一郎/鈴木 真実哉/石部 公男/大高 研道	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>内容</b> 大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらうことを目的とする。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしたりレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。 <b>カリキュラム上の位置づけ</b> 全ての科目の履修を支える最も基礎的な部分である。 <b>学びの意義と目標</b> 2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。	
<b>評価方法</b>	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

予備演習 B	秋 週1回 1単位
担当者：石川 裕一郎/加藤 恵司/高橋 愛子/松尾 秀哉/森分 大輔/横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) 2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンスの授業を行う。各担当者が各授業内容を企画・実行する。共通メニューとして(1)2年時からの「演習」選択のために必要な予備学習を行うと共に、ゼミ開講の担当者のゼミ紹介授業、(2)アセンブリーアワーを活用する授業を行う。  (カリキュラムの位置づけ) 大学教育への導入および基礎教育の一環として位置づけられ、専門的な演習への導入を行う。  (学びの意義と目標) 「専門科目」受講および2年次から履修する専門的な「演習」選択のためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めること。	
<b>評価方法</b> 平常点(出席率)(80%)及び各担当者が提供する課題(20%)によって評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

予備演習 B	秋 週1回 1単位
担当者：渡辺 英人/川添 美央子/大塚 健司/瀧名 浩一/大森 達也/谷口 隆一/鈴木 真実哉/石部 公男/大高 研道	
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) 大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらうことを目的とする。読解力やコミュニケーション能力、発表をこなしたりレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。 (カリキュラム上の位置づけ) 全ての科目の履修を支える最も基礎的な部分である。 (学びの意義と目標) 2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。	
<b>評価方法</b>	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

予備演習 C	秋 週1回 1単位
担当者：新井 尚子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 春学期での「基礎教育入門(書き方)」で学んだことを踏まえ、「読む」「書く」「話す」「聴く」の総合的なコミュニケーション能力の向上を目指します。 具体的には学生自らテーマを選び、レポート作成とプレゼンテーションを実施し、講義担当者によるフィードバックを行います。 この過程を通して、代表的なプレゼンテーションソフトの使い方、スライドを使用した発表の効果的な実施方法を身につけてもらいます。 2. カリキュラム上の位置づけ 大学での学びのための基礎的な能力を育成する必修科目です。 3. 学びの意義と目標 日本語を用いた様々な表現スキルを身につけることを目標にします。これらのスキルは大学だけでなく、将来の社会人生活でも役立ちます。	
<b>評価方法</b> 出席点40%、課題40%、講義への参加態度20%で総合的に評価します。定期試験は行いません。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

予備演習 C	秋 週1回 1単位
担当者：上嶋 康道	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 「書く」「話す」「聴く」の総合的なコミュニケーション力向上を目標として、学生によるプレゼンテーションの後、質疑応答と講義担当者によるフィードバックを行います。 プレゼンテーションの実施方法や内容については、前年までの学生が作成したスライドをオリエンテーションで紹介し、加えて、コンピュータの使い方(プレゼンテーションソフトの使い方を身につける事になります)も含め、具体的手順について詳しい解説もしますから心配は不要です。 2. カリキュラム上の位置づけ 「大学で学びを始めるために必要な基礎能力を身につけること」をめざします。 3. 学びの意義と目標 言語(日本語)を用いた表現技術と自己の関心から問題を発見するという体験を得ることです。	
<b>評価方法</b> 平常点を重視します。学生には積極的に参加することが求められます。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

ライフデザイン・良く生きる A		春	週1回	2単位
担当者：清水 均/小林 茂之				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1、内容:本講座は学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実を願うと同時に生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージしてもらい、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなってほしいという願いをこめた講座である。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 学科カリキュラムにおける「専門基礎科目」に位置する必修科目である。即ち、日本文化学科の学生として卒業するためには履修が絶対に欠かせない科目ということである。</p> <p>3、学びの意義と目標 大学で過ごす数年間が人生にとって非常に大切な時間であることは言うまでもない。特に他者とのコミュニケーション力を養成することは生涯にわたって自己を生かす上で必須の要件となるので、是非とも身につけておいてほしい。そうした目標の達成を目指すことから、授業形態は基本的に「参加型」の形式をとる。</p>				
<b>評価方法</b>				
(1)出席状況:1/4 (2)「私の読書記録」:1/4 (3)授業内容に関する提出物:1/2				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

ライフデザイン・良く生きる B		秋	週1回	2単位
担当者：柳田 洋夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>内容:本講座は学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実を願うと同時に、生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージしてもらい、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなってほしいという願いをこめた講座である。「ライフデザインB」ではまずは「キャリア」を意識してそれぞれのキャンパスライフをどのように組み立てるかをデザインする。次に、日本文化学科の学生としてどのような専門研究をするかという方向づけのヒントとなるよう、各学問ジャンルにおける基礎力を養う「基礎学力養成プログラム」を実施する。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ:学科カリキュラムにおける「専門基礎科目」に位置する必修科目である。即ち、日本文化学科の学生として卒業するためには履修が絶対に欠かせない科目ということである。</p> <p>学びの意義と目標:「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」を具体的に描き、これから先の学生生活の目標をつかむことが学びの目標となる。</p>				
<b>評価方法</b>				
(1)出席状況:1/4 (2)「私の読書記録」:1/4 (3)授業内容に関する提出物:1/4 (4)最終課題:1/4				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

ラテン語 A		春	週1回	2単位
担当者：片柳 榮一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>【ラテン語の学び方】 (講義目標)</p> <p>ヨーロッパの古典語一般がそうであるが、ラテン語も名詞、動詞などほとんどの単語がそれぞれ語尾変化し、自らが一つの文章中でどのような役割をしているかを、いちいち語尾変化で示す(近代語は語尾変化を減らして、それを文の中の位置で示そうとする)。その変化を覚えるのは、初心者にとっては、いささか苦痛である。その苦痛を少し忍んで、語尾変化を覚えてゆくと、或る日単語がひとりでに動いて文章の形(主語と動詞)をなしてゆくように思える時がくる。ラテン語がいわば微笑みかけてくる時だ。そうなるラテン語の学びは楽しみとなる。そのような時に至ることを目標にしたい。</p> <p>ラテン語の特徴は、短い文章のうちに多くの内容を包みうるその簡潔性にあると思う。ヨーロッパ語にはめずらしく冠詞がないところにその簡潔性はよく現われている。冗長な文章を書きがちな我々現代人は、簡潔さの中に多くの内容を盛り込んだラテン語の凝集力から多くのことを学びうらと思う。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席率50%、期末試験50%の合計で評価する。				
<b>教科書</b>				
M.アモロス『ラテン語の学び方』南窓社				

ラテン語 B		秋	週1回	2単位
担当者：片柳 榮一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>【ラテン語の学び方】 (講義目標)</p> <p>ヨーロッパの古典語一般がそうであるが、ラテン語も名詞、動詞などほとんどの単語がそれぞれ語尾変化し、自らが一つの文章中でどのような役割をしているかを、いちいち語尾変化で示す(近代語は語尾変化を減らして、それを文の中の位置で示そうとする)。その変化を覚えるのは、初心者にとっては、いささか苦痛である。その苦痛を少し忍んで、語尾変化を覚えてゆくと、或る日単語がひとりでに動いて文章の形(主語と動詞)をなしてゆくように思える時がくる。ラテン語がいわば微笑みかけてくる時だ。そうなるラテン語の学びは楽しみとなる。そのような時に至ることを目標にしたい。</p> <p>ラテン語の特徴は、短い文章のうちに多くの内容を包みうるその簡潔性にあると思う。ヨーロッパ語にはめずらしく冠詞がないところにその簡潔性はよく現われている。冗長な文章を書きがちな我々現代人は、簡潔さの中に多くの内容を盛り込んだラテン語の凝集力から多くのことを学びうらと思う。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席率50%、期末試験50%の合計で評価する。				
<b>教科書</b>				
M.アモロス『ラテン語の学び方』南窓社				

<b>リスク科学論研究</b>	春集中 週1回 2単位
担当者：標 宣男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈講義目標〉</p> <p>リスクにより社会を考えることは、現在では普通のことになりつつある。本講義はリスク論についての一般論を講じるが、これにより、さまざまな危険の存在する社会をリスクという視点から見ることを学ぶとともに、リスク対策の基礎的考えを身につけてもらいたいと思う。</p>	
<b>評価方法</b>	
講義にきちんと出席することを前提に、レポートにより評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>リハビリテーション論</b>	秋集中 2単位
担当者：下岡 隆之	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>本講義のテーマは、リハビリテーションとは何であるかを歴史や理念、実際から学ぶ事である。“リハビリ”という言葉が一般的になっているが、リハビリテーション本来の理念や定義を熟考しつつ、保健医療福祉分野での実践を紹介する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>専門科目ではあるが、今後習得する科目に活かせる点において基礎的科目といえる。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念を理解する</li> <li>・リハビリテーションの対象を理解する</li> <li>・リハビリテーション関連職種間の連携を理解する</li> <li>・リハビリテーションを通して人の生活を考える</li> </ul>	
<b>評価方法</b>	
課題、試験等を総合的に評価します。	
<b>教科書</b>	
安藤 徳彦『リハビリテーション序説』医学書院	

<b>流通・販売・経営論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：山本 俊明	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>わたしたちは、多様な出版物（書籍と雑誌）を日本独特の出版流通制度（出版社・取次・書店）により、どこでもいつでも手に入れ、読書することができる。この流通制度の下、出版業界は年間8万点の新刊書籍、4千点近い雑誌を発行し、経済の不況に関わらず成長を遂げてきた。しかし1996年をピークに出版販売金額は下降を続け、書店も年に千店が廃業となる危機を迎えている。授業では、(1)日本の出版流通制度の現状と課題、(2)出版物が読まれなくなっているといわれる読書の現状（読書空間、読書装置）を分析し、(3)インターネットによる新しい出版と流通が、出版業界と読書の危機を解決するのかを考察する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>出版業界（出版社・取次・書店など）の現状を実際に即して把握することを通して、将来の職業選択の手がかりとなることを目指す。キャリアガイダンス科目に位置づけられる。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>授業で出版社、書店、読書状況などの現状を実際に調査し分析する。このことを通して、読んでいる出版物、受け取っている情報に対する批判力を養成することが目標となる。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価は、1) レポート [4回]、2) 授業出席票（授業内容理解とコメント）、3) 授業出席回数（8割以上）による。レポートは100点満点で評価し、提出がない場合は0点となる。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>理論社会学</b>	春 週2回 4単位
担当者：土方 透	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>本講義では、現代の社会学理論が到達した学問的境位を、人間の知の展開として位置づけることを目的とする。</p> <p>講義では、まず人類の思想の歴史的展開を概観する。そのことにより、はじめて最新の理論と呼ばれるものの「新しさ」が明らかになろう。すなわち、思想史上の連続的側面と非連続的側面から、現代の理論というものが理解可能となるわけである。そうした作業を経たうえで、現代社会において、所与のものとして市民権を得た諸思想ならびに諸価値の限界を指摘しつつ、いま考えられる可能な選択肢を提示したい。</p> <p>本講義では、広範な領域におよぶ知的好奇心と、高度に抽象的な議論に耐えられる能力が要求される。ぜひ、「学問する」ことの醍醐味を感じ取ってほしい。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席、テスト	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	



<b>臨床心理学</b>	春 週2回 4単位
担当者：長谷川 恵美子	
<b>講義の目標及び概要</b> 臨床心理学は心理学の一研究分野であるとともに、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学でもある。授業では、その歴史、発達理論や人格理論などの基礎理論、心理査定や心理療法などの方法論について、学校、産業、医療、福祉などの視点から、それぞれの領域での事例などを含めながら概説し理解を深める。	
<b>評価方法</b> 平常点、および学期末のレポート試験により総合的に判定する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>臨床心理学概論</b>	秋 週1回 2単位
担当者：藤掛 明	
<b>講義の目標及び概要</b> 近年、心の問題に対する興味・関心の高まりから、それを扱う臨床心理学に注目が集まっている。国家資格はまだないが、カウンセラーの社会的な役割も年々大きくなりつつある。そのため、臨床心理学の広がりや深まりは進行しており、その全貌を扱うことは難しい。 本講義では、臨床心理学の広がりや学ぶために、心理アセスメントや心理療法、現場における心理の仕事を概観する。あわせて、その深まりや学ぶために、最新のトピックスを適宜織り交ぜ、扱っていく。また、体験学習も含め、なるべく体験を通じた知を提供していきたい。	
<b>評価方法</b> 出席・態度および授業内で行うミニテスト (50%)。定期テストに代わるレポート (50%)。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>倫理学A</b>	春 週1回 2単位
担当者：原 一子	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉 ソクラテスは、「大切なことは、ただ生きるのではなく、より善く生きることだ」(『クリトン』)と語ったが、本講義では、その「より善く生きる」ことについていかに考えられてきたかを、思想史的に跡付けつつ、善悪、義務、徳、価値などの倫理学の根本問題を考察する。古代ギリシア、近・現代の重要テキストに触れつつ、身近な倫理問題についても言及したい。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 こども心理学科の共通基本科目に属する選択科目である。 (3) 〈学びの意義と目標〉 「より善く生きる」ことについて人々がいかに考えてきたかを学ぶことは、学問的のみならず、われわれ一人ひとりの生き方を考える上でも極めて重要なことである。ましてや、こどもの倫理性を育成するためには、こどもに関わり、寄り添う者自身の倫理観、価値観の確立は不可欠である。	
<b>評価方法</b> 学期末試験を筆記試験にするかレポートにするかは受講者数によって開講時に決める。試験またはレポートの成績 (50%)、出席率 (30%)、授業中の課題の習得度 (20%) などから総合的に評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>倫理学B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：原 一子	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉 「倫理学A」では、「より善く生きる」ことに関する倫理学の根本問題を思想史的に跡付けつつ考察したが、本講義では、現代の、特にこどもを取り巻く社会環境に着目して倫理問題を考察する。科学技術の進歩、グローバル化や情報化に伴って、家族や共同体のあり方、倫理観も変容しつつあるが、その中であってわれわれがいかにして価値観を確立し、それをこどもに伝えることができるのかを共に考える。社会問題に関する討論も行い、倫理的課題を学生自身がわが身に引き付けて考える機会を作りたい。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 こども心理学科の共通基本科目に属する選択科目である。 (3) 〈学びの意義と目標〉 「より善く生きる」ことについて古来いかに考えられ、それが現代社会にいかに実現されているかを学ぶことは、学問的のみならず、われわれ一人ひとりの価値観の確立のためにも極めて重要である。ましてや、こどもに寄り添い、倫理性を育成するためには、こどもに関わる者自身の倫理観、価値観の確立は不可欠である。	
<b>評価方法</b> 学期末試験を筆記試験にするかレポートにするかは受講者数によって開講時に決める。試験またはレポートの成績 (50%)、出席率 (30%)、授業中の課題の習得度 (20%) などから総合的に評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>倫理学概論</b>	春 週1回 2単位
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【授業の概要】倫理学を知っておくとどんなときに役立つのだろうか？生きていけばだれでも一度や二度は人生上の大小の壁にぶち当たるはずだ。そんなとき倫理学が役に立つ。どうにもこうにもならなくなった状況、そのような壁の前にたたずむしかないような状況から脱出するには、自分の考え方を換え、状況を違う角度から捉えなおすことが必要だ。倫理学の考え方を身に着ければ、それができるようになる。そのためには、まず自分をしっかり見つめることができなければいけない。自己を見つめるということは、自己の内面に引きこもることではない。自分の心の扉を開くということだ。わたしたちがお互いなんとかうまくやっていけるのは、行動を規制するルールや倫理道徳が存在するからだ。しかし現代社会には法や常識で割り切れない倫理道徳上の難題（アポリア）が多く存在する。【授業の目標】それらのアポリアからいくつかを選んで、それらについてじっくり考えてみる。そのことを通して、君が目前のアポリアに直面し、他者が納得いくように、君の決断と行為について君なりに説明できる力を伸ばそう。これがこの講義の最大にして最終目標だ。【カリキュラム上の位置づけ】この科目は、社会科学の教職科目である。公共哲学の基礎となる科目でもある。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業内レポート30%、平常点（授業への積極的参加）10%、論述60%で総合的に評価する。なお、遅刻は平常点においてマイナスに評価する。ただし人数が少なくゼミ形式となった場合は、授業内レポート30%、平常点20%、論述50%の比率で評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』見洋書房	

<b>歴史学概論</b>	春 週2回 4単位
担当者：和田 光司	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>（内容）この授業は歴史学の入門ではなく、既に一通りの通史の知識がある者が一段上の歴史的な考え方を学ぶことを目的とする。書店に行けば、いつも多くの歴史の本を目にする。また、歴史に関心があり、歴史の議論をする人は多い。戦争や教科書問題について語る学生も多い。しかし、それらの本や言葉のすべてが、真に信頼に足るものであろうか。「学問」としての歴史学とは、いったいどのようなものであろうか。この授業の目的は、「歴史」や「歴史学」について考えることである。注意してほしいことは、この授業では、ヨーロッパの具体的な歴史の流れ（「通史」と言う）について学ぶことはしない。この授業で扱うのは、人間にとって歴史とは何か、人間は歴史をどのように考えてきたか、学問としての「歴史学」はどのように生まれたのか、歴史は科学か、歴史における真実とは何か。どのようにしたら、その真実に到達できるのか、歴史学は今どうなっているのか、どのような主題に関心を持たれているのか、といった問題である。</p> <p>（カリキュラム上の位置づけ）基礎知識の「西洋史」、通史の「ヨーロッパ史」に続く上級科目である。既に高校で世界史B、本学でヨーロッパ史A又はBを受講した者を対象。（目標）歴史を本格的に学びたいという学生のために、方法論的知識を与える。</p>	
<b>評価方法</b>	
レポート（60%）、授業中小レポート（40%）	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>歴史と社会</b>	春 週2回 4単位
担当者：川崎 司	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 喜びと怒りと哀しみと楽しみと、繰り返され積み重ねられていく「歴史」の姿。そこに刻まれた「社会」の諸相。誰もが限られた時の中で躍動し輝きを放つ。いとおいしい日常の営み。父母や祖父母の世代に起きたことが、さまざまに関連し合っただけで今日の「社会」ができていく。その間に語り継がれてきた「歴史」の映像に五感を傾け、そこに流れている普遍的なものを探究し、歪んだ自己満足を排し、明日をよりよく生きるための指針としたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ。 1945年の終戦記念の日を起点とし、以後の復興から繁栄の道を駆け上った67年を、歴史学的・社会的な見地からじっくり見つめてみる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 現在の暮らしの原点を探し、その間に何が生まれて何が喪われていったのかを、遺された映像記録の中から共に検証していきたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度に見る。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>歴史と文化</b>	秋 週2回 4単位
担当者：東島 誠	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>◆講義内容◆ 大規模な災害が起こったとき、人々はいかに行動してきたか。この講義では、18世紀中ごろの、ある匿名の女性性の行動を糸口として、そこから現代のNGOやNPOのボランティア活動にも通じるような、社会関係の構築可能性を（文化）の中に見出していく。その際、人々の間を（橋渡し）するメディアーターの役割に注目したい。前近代社会のメディアが、次の時代のどのような新しい社会性を生み出していくのだろうか。メディアロジーという視点に立って、2012年の今、諸君とともに考えていこう。</p> <p>◆カリキュラム上の位置と目標◆ 2～4年生を対象とする専門科目。「難しかったが、大学で勉強した気になった」という学生のカードが、この科目の雰囲気をよく表していると思う。</p> <p>◆学びの意義◆ この科目で問いかけている内容は、2007年5月19日付『朝日新聞』夕刊「テークオフ」に、『『江湖』に公共性見いだす』として取り上げられた。素材ははるか昔の歴史のなかにあるが、今、そしてこれからを考える授業である。</p>	
<b>評価方法</b>	
前半のまとめ（35）＋後半のまとめ（35）＋授業カードによる平常点（30＋優秀者には加点あり）。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>レクリエーション論</b>	秋 週1回 2単位
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) レクリエーションの語源や歴史を辿るとともに、「レクリエーションの本質」について学ぶ。レクリエーションの活動は、その人のものの見方や価値観、社会のありようにも反映されていることから、自分の「生き方」を考えていく。 (カリキュラム上の位置づけ) 自分の生き方を模索し、目標や目的を達成するための自由時間の使い方を学ぶ。同じ視点で福祉社会におけるレク支援をするには「何が問題で何が必要か」を検討する。 (学びの意義と目標) レクリエーションの本質、自分の生き方(ものの見方、価値観、優先順位のつけ方)を考えるため、自己開発能力を養うこと、生活文化を豊かにすることを学ぶ。	
<b>評価方法</b> 出席率重視 50点 学習に臨む態度・意欲 20点 毎回のミニレポート、課題提出、その他30点 総合的に評価する	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>レファレンスサービス演習</b>	春 秋 週1回 1単位
担当者：気谷 陽子	
<b>講義の目標及び概要</b> 情報の専門家として必要なスキルを養成するために必要な情報検索サービス、レファレンスサービス、情報教育、発信型情報サービスなどの情報サービスに関する演習を行う。	
<b>評価方法</b> (1) 定期試験の成績 (70%) (2) 授業時のレポート (30%)	
<b>教科書</b> 『情報サービス演習』樹村房	

<b>レポート作成法A</b>	春集中 1単位
担当者：和田 光司	
<b>講義の目標及び概要</b> 1内容：入学前準備課題としてレポートを実際に作成しながら、大学生活に不可欠な学問的能力であるレポートの書き方を身につける。レポートを書くとは具体的にどのようなことを意味しているのか。それは「書くことを通じて考える」ことであり、また書籍、文献、資料などを活用することにより、自己の興味・関心を客観的に位置づけ表現することである。履修者は個別指導を受けながら、欧米文化に関するさまざまなテーマを自分で設定し、実際にレポートを完成させる。 2カリキュラム上の位置づけ：欧米文化学科の入学前準備課題を担当教員全員が添削指導し単位化する科目である。 3学びの意義と目標：大学生活を始めるにあたり必要なスキルであるレポートの書き方の基本を学ぶこと、そして欧米文化に対する漠然とした興味・関心を具体的な学びに結びつけることによって、意欲と目的意識を持って大学生活が始められるよう、準備することが本授業の目標である。	
<b>評価方法</b> レポートの内容を各担当者により精査し、点数化する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>労働経済論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：金子 良事	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容：本講義では「労働」に関係する基本的な事柄を歴史や現在の状況などを踏まえて教えます。社会では誰もが「労働」をしているのであり、それぞれが「労働」についてのイメージを持っています。しかし、その分、雑誌等には十分に考えを煮詰めていない議論も流布しています。折に触れて、そういう言説にも言及します。 (2) カリキュラム上の位置づけ：現代の経済学は統計を利用をします。この講義では「労働統計」は説明しますが、統計学の説明をしませんので、各自「統計学」等で補ってください。また、生活に関連する科目として「社会保障」があります。 (3) 学びの意義と目標：社会に出て働くことの意義はそれぞれ自分で探さなければなりません。本講義では逆に社会の中における「働く(=労働)」の意味は何かを学び、考えることになります。最終的に自分で考えながら、白書を読めることを目指します。 その他 参考文献は授業内で紹介します。	
<b>評価方法</b> 試験。出席点は含まない。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	